

ジャパンモビリティショー札幌2026に北海道科学大学のT型フォードが出展

2026年1月23日～25日(金・土・日)、大和ハウスプレミストドーム(札幌ドーム)で開催されたジャパンモビリティショー札幌2026に北海道科学大学所有の1926年製T型フォードならびにニトリ所有のクラシックカー4台を出展しました。

この企画は、2025年2月に本法人と包括連携協定を締結している株式会社ニトリホールディングス及び公益財団法人似鳥文化財団と共に「ニトリクラシックカープロジェクト」として出展いたしました。未来の自動車が展示される中、戦前の自動車が5台展示され、車両の解説に熱心に耳を傾けている方や、記念撮影をする方など多くの来場者で賑わいました。

その他にも、2025年度は9月に小樽クラシックカー博覧会に参加。T型フォード再生プロジェクトとして、釧路地方自動車整備振興会のイベントや釧路工業高等学校への出前授業にてT型フォードをお披露目しました。

また、手稲区主催の「手稲タンケンツアー」では手稲区の小学生20名が100年前のクルマに出会う企画として、T型フォードを通じて自動車の歴史を学びました。

引き続き、T型フォード再生プロジェクト、ニトリクラシックカープロジェクトの活動をお楽しみください。

各プロジェクトのレストア状況や出展内容・予定については、以下の特設サイトよりご確認ください。

Japan
Mobility
Show
Sapporo 2026



1926年製 T型フォード

展示したT型フォードは、法人の始まりである自動車運転技能教授所(現北海道自動車学校)に98年前に導入された教習車で教習車引退後、北海道自動車短期大学の実習車両としてのこされたものです。

T型フォード 再生プロジェクト 特設サイト



ニトリクラシックカープロジェクト

このプロジェクトは、株式会社ニトリが収集したクラシックカーを北海道科学大学との連携協定に基づく事業として、修復を積み重ねていくことで、これらの後世に残すべき貴重な財産を、適切に保存することをミッションとしています。

ニトリ クラシックカープロジェクト 特設サイト

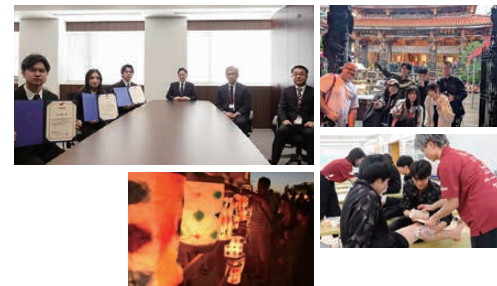


学校法人北海道科学大学「とことん、ひらこう。」寄付金ご協力をお願い

2025年4月から新ブランドビジョン「とことん、ひらこう。」を冠した、学校法人北海道科学大学「とことん、ひらこう。」寄付金の募集を立ち上げ、就学支援、自主活動支援、国際交流支援、地域共創支援、カーボンニュートラル推進支援の5つの事業について募集を開始いたしました。

また、個人の方には、1回で3万円以上のご寄付に対し、返礼品(卒業生企業、連携自治体、共同研究先の商品)の贈呈も行っております。

つきましては、諸事ご多端の折、誠に恐縮ですが、寄付の趣旨にご賛同していただき、卒業生、保護者、地域社会の皆様からのご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



応募期間

2025年4月1日から
随時、募集

応募の対象

- 1口……………5,000円
 - 個人……………1口以上
 - 法人……………10口以上
- ※金額の多寡にかかわらず有難くお受けいたします。

寄付の詳細につきましては、本法人の寄付金サイトにてご確認ください。

寄付金サイト > <https://ed.hus.ac.jp/donation/>

こちらからも
ご確認ください



HUS NEWS LETTER

Vol.48 / Hokkaido University of Science

特集1 | 第58回北海道科学大学大学祭
稲峰祭

特集2 | 知ってほしい
北科大の研究力

05 | 学生の活躍

09 | 卒業生訪問

07 | 研究室から

10 | HUS調査隊

北海道科学大学 HUS NEWS LETTER 2026年2月4日(第225号)



今年の大学祭も
盛り上がって
いきましょー!

第58回北海道科学大学大学祭

TOHO-SAI

TOHO-SAI

2days Back-Scene Snaps

今年もやってきた大学祭。9月20日(土)・21日(日)の2日間、学校法人創立100年からの新たな一歩目となる本年度は、学生一人ひとりに挑戦する心が芽生え、未来へとつながってほしいとの願いから「萌」をテーマに開催し、100を超える模擬店と大学祭実行委員が、約8,000人の来場者をお迎えしました。

	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00
9/20 sat	オープニング	大食い大会	よさこい	SPECIAL LIVE				
		スタンプラリー						
		緑日						
9/21 sun		KIDS BINGO	学生パフォーマンス	BIG BINGO				
		スタンプラリー			エンディング			
		緑日						

私たちを見つけて
ビンゴ大会に参加してね！

今日はお友達のシープリンと一緒に来たガオー！

わんこそば、100杯目標にしてたけど、無理かも…。

腕相撲で僕に勝ったら割引だよ。
どうだい、やらないか？

模擬店グランプリ、獲るぞー！

雪	嶺	会
ブ	ー	ス

雪嶺会の9支部が
大学祭に集結！各地の
名産品を振る舞いました。

地域支部

青森、函館、稚内、旭川、釧路、北見、十勝

学科支部

電気電子工学科支部

クラブ支部

剣道部支部

特集 2

社会実装が期待される
本学の研究シーズ

北海道大学が主幹機関となり、本学も共同機関として参加する「北海道未来創造スタートアップ育成相互支援ネットワーク(HSFC)」では、国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)から提供される基金を利用し、研究成果と事業化の間のギャップを埋める、GAPファンドプログラムを実施しています。2025年度は本学から3つの研究シーズが採択され、事業化に向けた整備を進めています。

線維病巣へ集積する小分子抗体
DDSによる慢性腎臓病の創薬基盤

薬学部
薬学科
戸上 紘平 准教授

目指すのは、進行すると末期腎不全に至る、現時点では治療法がない慢性腎臓病の投薬システム。病巣に届き、長くとどまる抗体ベースのドラッグデリバリーシステムの創製に向けて効果検証を行い、成果を基に協業体制の準備を進めます。

転倒リスクタイプ別トレーニング
提案システムの開発とエビデンス構築

保健医療学部
理学療法学科
佐藤 洋一郎 教授

高齢者の転倒を予防するため、転倒リスクをタイプ別に分類し、最適なトレーニングを提案する介入支援システムを開発します。リハビリ特化型デイサービス等にもヒアリングし、そこから見えてきた課題をもとに事業化を進めます。

脳卒中片麻痺者に対する
推進力アシストインソールの世界展開

保健医療学部
義肢装具学科
昆 恵介 教授

脳卒中が原因で体の片側に麻痺が生じた人の歩行改善と転倒予防に向けて、北大発のインソール型装具「ROSI」の事業化を目指します。モニター調査のデータから事業化の可能性や知財戦略を検討し、スタートアップ設立に向けた計画を構築します。

新産業の創出から
社会実装までを
支える

北科大
The research power of HUS

知って
ほしい
研究力

北科大の研究は、
基礎研究だけにとどまりません。

2024年度に立ち上げた「研究推進社会実装センター」では、研究成果を実社会に応用する事業化も積極的にサポート。研究しやすい環境づくりに努めながら、社会とつながる“研究力”を育てています。

研究推進社会実装センター

社会の役に立つ研究シーズを育み、
世の中に知ってもらう機会を創出

研究推進社会実装センター
長
丁野 純男

大学の研究はかつて、その成果を論文にして学会発表するだけで十分だという認識がありました。しかし、近年は「大学の研究はどう役に立っているのか？」まで問われる時代となり、大学として研究成果を能動的に拾い上げ、世に出していくことが求められています。

そのような時代に対応すべく、北科大では研究推進社会実装センターを創設し、「研究支援」「成果発信」「産学官連携」「研究所」という4つの柱で学内の研究力を高めています。

研究では「深み」が必要となりますが、研究成果を社会実装となると世の中のニーズに合わせることで「幅広さ」が求められます。そのギャップを埋めるのが、研究推進社会実装センターの大きな役割であると考え、全国の技術移転イベントに積極的に出展して学内の研究を広く発信し、企業とのマッチングや連携のきっかけとなるような動きを強めています。

また、研究は経験値も大切ですが、それ以上に細かい実験を続ける体力、頭の柔軟さが必要となります。だからこそ、若いうちにどれだけ研究に没頭できるかが勝負です。科研費や助成金など外部資金の情報共有や申請に関する支援も手厚く行いながら、若手研究者がより研究に専念できる環境を整え、北科大のさらなる“研究力”の向上に努めています。

研究推進社会実装センター
の取り組み

※一部抜粋

HUS 学術研究交流会

知的交流のさらなる促進や研究活動の活性化に加え、実学系総合大学のスケールメリットを生かした異分野協働、新たな研究チームのマッチングを目指し、教員同士の研究発表会を定期的に開催しています。

HUS
スタートアップミーティング

研究シーズの社会実装に向けて、起業やスタートアップに関するノウハウや意欲を高める講演を開催しています。2025年は大学在学中にスタートアップを設立した起業家をお招きし、創業までのストーリーを教えてくださいました。また、講演だけでなく、ワークショップ形式の講座も実施しました。

技術移転イベント

社会実装に向けて、大学の研究シーズと企業のニーズをつなぐ産学官連携のマッチングイベントにも参加。研究成果や技術の実用化・事業化を後押ししています。

大学見本市2025～
イノベーション・ジャパン

腎不全の克服を目的とした線維化病巣へ集積する抗体分子/
薬学部 薬学科 戸上 紘平 准教授

2025 第39回
北海道ビジネスEXPO

「カーボンフットプリント可視化システム」/
情報科学部 情報科学科 荒澤 孔明 講師
「AIによる薬(錠剤)のリアルタイム判別」/
情報科学部 情報科学科 松川 瞬 講師

北洋銀行ものづくり
サステナフェア 2025

「ヒトにやさしい工学技術の開発・発展を目指して」/
保健医療学部 義肢装具学科 教賀 健志 教授、
保健医療学部 理学療法学科 加藤 士雄 教授、
工学部 機械工学科 池田 圭吾 講師

BioJapan2025

「既存医薬品の新たな可能性
-抗酸化作用と抗炎症作用-」/
薬学部 薬学科 立浪 良介 教授、
薬学部 薬学科 佐藤 恵亮 准教授



放送芸術部

BROADCASTING ART CLUB



くしたり、血のりて文字を書いたりしていると、フィクションの中のフィクションを作り込むという、これまで知らなかった世界にふれ、その独特の面白さに引き込まれていきました。これも仲間と一緒に活動する部活ならではの魅力だと思いましたし、自分自身も映像制作の視野や幅が広がったように感じています。映像制作は難しいと思われがちですが、ちょっとでも何かを作りたいと思っている人なら大歓迎です。カメラに触ってみたい、マイクを持ってみたいという気軽な気持ちで、やる気を持って入ってきてほしいです。みんなで一緒に、創造する喜びを味わいましょう。



未来デザイン学部
メディアデザイン学科
3年
部長
山本 寛也さん

映像制作を通じて自分だけの世界を創造する。

初心者でも一から学べる環境で、仲間と共に作品作りに挑戦できます。

カメラの触り方を知らなくてOK!
経験を積んで成長できる部活です。

放送芸術部のメインの活動は「映像制作」です。制作する「映像」は大きく分けて2種類あり、1つは自分たちで企画するオリジナルの映像作品、もう1つは大学内や外部から依頼を受けて制作する映像です。オリジナル作品は活発な時期で3〜4本のプロジェクトが同時に進行しています。依頼される映像制作も入学式で上映するクラブ紹介からオープンキャンパスの記録映像、さらには他の部活のプロモーションビデオやスポーツ大会の撮影など、月に1本は必ず依頼が来ています。昨年度は学校法人創立100周年記念セレモニーのエンディングムービー、さらには学位記授与式にて上映する映像撮影も放送芸術部が担いました。

部員は授業でも映像制作を行うメディアデザイ

ン学科だけでなく、工学部、薬学部、保健医療学部などから幅広く集まっています。ほとんどが初心者からのスタートですが、放送芸術部では入部してすぐにチームを組んで短編作品の制作を経験してもらっていて、先輩と一緒に実践的に学べる環境が整っています。さらに今年度からは機材の使い方や編集技術を学ぶ座学も始め、全員が着実にスキルアップを図ることができています。

部長としては80人という大所帯の部員たちに、いかにたくさんの経験を積めるようにできるかを課題に感じています。1つの作品に関わる人数は限られてしまうので、オリジナル作品のプロジェクトをできるだけ増やすようにしており、プロジェクトにも脚本・撮影・編集などの役割を変えて参加してもらうなど、いろいろなチャレンジができるように努めています。

思いつきで始めた映像制作が
いつしか人生の道になりました。

私は中学時代に友達と思いつきでスマホでの動画撮影を始めたことで、映像制作にハマっていきました。高校3年生のときには短編映画の制作に助監督と脚本で参加し、「高校生のためのeiga worldcup」という全国コンクールで最優秀編集賞などの賞も受賞しました。

映像制作は「自分のいない世界」を自分で創りだすことができる」ところに面白さがあると思っています、まるで「神」になったかのような創造の喜びを味わえるのが一番の醍醐味に感じています。私は「日常の中にある非日常」や「非日常の中にある日常」といったことをテーマに作品づくりをすることが多いのですが、そこにはコロナ禍で感じた普通とは何かという問いや違和感が大きく影響しています。一方、今年度の夏の合宿では、撮影監督としてホラー作品の制作に携わったのですが、これが私にとって新しい発見の連続でした。自分では企画することのないホラーの現場に入り、顔や手を真っ白にメイ

Activity content

プロが使うような撮影機材が充実しており、それらを使用した映像制作を行っています。部員はそれぞれの興味に応じてカメラ、音声、編集などさまざまな役割を経験できます。



Data

放送芸術部

[部 室] 4号館2階
4202号室
[部 員 数] 80人



HUS

CAMPUS NEWS

学内ニュース

『わがまちトークinていね』
vol.3を
開催しました



詳しくは
こちらをご覧ください



学生がデザインを担当した
コラボキッチンカーの
デザインお披露目会を実施しました!



詳しくは
こちらをご覧ください



第20回札幌国際短編映画祭で
学生監督作品が
「北海道メディアアワード」を受賞!



詳しくは
こちらをご覧ください





研究室から In the Laboratory

北科大で行われている研究の最前線をクローズアップ！

コンクリートでコンブを育て、 ブルーカーボンの推進に寄与。 持続可能な海を未来につなぐ

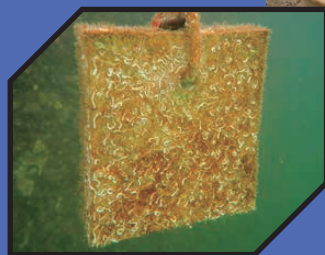
建設業が抱えるCO₂問題。
その解決の鍵は
「海」にあった。

――先生が研究されている「ブルーカーボン」とはどのようなものですか？

コンクリートや鉄鋼の生産時には莫大なCO₂が排出され、特にコンクリートの材料であるセメントは原材料の石灰石を熱分解する際に大量のCO₂を放出します。そうした環境負荷の大きい産業とされる建設業において、カーボンニュートラルの視点から注目されているのが「ブルーカーボン」です。

ブルーカーボンとは、海藻や海草などの海洋生態系が光合成によってCO₂を取り込み、海底や深

海に炭素を貯留する仕組みのことです。コンブなどの海藻は枯れると深層海流に乗って深海に流れ、約1000年もの間、海中に留まって空気に触れることがないといわれています。そのため、森林でCO₂を吸収するグリーンカーボンが100年サイクルといわれているのに対して、その10倍も長く吸収して留めておくことができます。周囲を海に囲まれた日本にとって、カーボンニュートラル達成に向けた非常に有力な選択肢として期待されています。



◀▲麦芽粕を混ぜたモルタルブロックに海中の胞子体が定着して、コンブが自然と育っていく。

発酵木粉や麦芽粕を混ぜた
モルタルブロックで
コンブの育成に成功。

――ブルーカーボンとコンクリート、研究ではどのように結びついているのでしょうか？

本学では薬学部の三原義広先生が、白樺の切削くずの再利用方法として、木粉を発酵させてアルコールを作る研究をしています。そのアルコールを採った後に残る発酵した木粉の処分に困っているという話を聞いたのが研究を始めたきっかけです。発酵木粉を分析したところ、栄養塩が含まれていたため、それをモルタルに混ぜて海に沈めたら海藻や海草が生えてくるんじゃないかと考えました。



▲実際の自然環境で行う曝露試験は卒業生の協力があって実現した。



コンクリートに有機物を混ぜるというのは強度が落ちてしまうので本来はご法度ですが、強度が弱いからこそ波などで表面が削られて、そこにまた新しいコンブが育っていくのではないかという循環にも期待して研究を行っています。

――具体的にはどのように進んでいるのですか？

今は函館市にある「函館どつく」の造船所の岸壁を使わせてもらい、実際の自然環境でコンブが生えてくるかという曝露試験を行っています。試験は3年前からスタートし、初年度は発酵木粉を入れて海に沈めたモルタルブロックにコンブがびっしりと生えました。ですが、翌年は海水温が高かったからか、うまく生育せず、海の環境に左右されるところにこの研究の難しさを感じています。

また、3年目を迎えた今年度は発酵木粉の成果を応用し、蒸留酒の製造過程で発生する糖化した麦芽を使って実験を進めています。

ない環境が広がっています。研究が進み、コンブが豊かに生える海になるということは、稚魚や小魚、小さなエビなどが隠れる場所もたくさんできるということでもあり、豊かな生物圏が形成されます。このように、ネイチャーポジティブに貢献する取り組みができたと思っています。



――学生たちに伝えたいことはありますか？

私自身、大学院時代に指導教員から卒業論文を書くにあたって、「いかに情熱を持って取り組めるかが大事だ」と教わりました。このブルーカーボンの研究も、その教への延長線上にあると感じています。私はもともと環境問題に興味があり、面白いと思っていたことが三原先生とつながり、自然と広がっていきました。さらに函館どつくでの実験も、そこで働く卒業生が研究室を訪ねてきてくれたことがきっかけで実現しました。情熱を持って取り組んでいると、そういう良い流れが生まれていくと思いますので、学生たちにも自分が勉強している分野にとらわれず、面白いと思うことには、どんどんチャレンジしてほしいです。



工学部 都市環境学科

今野 克幸 教授

HUS

CAMPUS NEWS

学内ニュース

情報科学部開設記念シンポジウム
「情報科学教育がひらく未来」
を開催しました



詳しくは
こちらをご覧ください



建築学科2025年
アニュアルブック(作品集)を
公開しました



詳しくは
こちらをご覧ください



看護学科の学生が
手稲溪仁会病院にて災害訓練に
参加しました



詳しくは
こちらをご覧ください



Graduate Visit

卒業生訪問

先輩の大学時代と ― これからを聞く



トヨタ L&F 札幌株式会社
山口 純弥 さん

当別町出身。2017年3月に北海道工業大学（現：北海道科学大学）未来デザイン学部人間社会学科を卒業後、トヨタL&F札幌株式会社に入社する。入社後3年間は苫小牧支店に勤務し、札幌市厚別区にある中央支店に異動。現在は同支店の販売課で営業活動を行っている。

北海道の物流の基盤となる
商材提案と販売を通して、
北海道の産業を支える。

私が勤務するトヨタL&F札幌は、トヨタグループの産業車両部門を担う会社です。フォークリフトやホイールローダー（除雪機械）の販売や整備を行っているほか、倉庫などで使用されるパレットや保管棚などの物流機器も取り扱っています。私が受け持っているのは白石区、清田区、北広島市の約500～600件のお客様で、エンジニアと二人三脚で対応しています。1日の流れは、朝に訪問計画を立て、日中は1日9～10件のお客様を訪問。夕方には帰社して見積書の作成、翌日の準備に充てています。得意先は個人のお客様から誰もが知る大企業まで幅広く、北海道の産業を支える仕事に携わっていることを日々実感します。



エンジニア経験のない自分が、
専門知識を一つひとつ習得。
10年の積み重ねが今の自信に。

当社は新卒での営業が少なく、営業スタッフの多くがエンジニアを経験しています。それは、フォークリフトやホイールローダーは専門性が高く、中にはお客様の要望に応じた完全オーダーメイド仕様ものもあります。仕組みを理解していないとお客様からの具体的な要望に答えられず、信頼を損ねてしまいます。私は営業として数少ない新卒採用でしたので、とにかく最初は分からないことがあれば先輩や同僚のエンジニアにすぐ聞くことを心がけました。同じ部品でも地域やメーカーによって呼び方が異なることもあり、覚えるのに苦労しましたが、お客様の前でも正直に「わかりません」と伝えただけで、その日のうちか翌日には調べて回答するように努めながら、一つずつしっかりと覚えていきました。10年が経った今は、その積み重ねのおかげで対応できる幅が広がっていると感じます。



地域の人々の交流から
人とつながる楽しさを実感。
営業職への道が自然と開けた。

大学ではフィールドワーク中心の授業で、地域の課題や活性化について深く学びました。ゼミの先生と共に、上富良野町や南幌町、様似町など道内の自治体を訪問し、役場の人たちや地域の方々と交流する機会が多くありました。その中でも地元の人たちに街の魅力を再発見してもらおうと、街歩きをして魅力を探すイベントが強く印象に残っています。温かく迎え入れてくれて、地元の料理もご馳走になるくらい親しくさせてもらったことは一生の思い出になっています。また、各地でさ



まざまな世代や立場の方々とのコミュニケーションを取るうちに人とつながることの楽しさを実感するようになり、自然と営業職を志望するようになっていました。当時の経験は今の仕事と直結していますし、振り返ると社会に出る準備ができた貴重な時間にもなっていたと感じます。

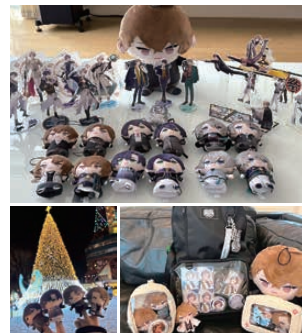
大学時代の部活動の経験も
活かしながチームとして
お客様との信頼関係を築く。

大学時代は野球部でキャプテンも務めました。学生主体のチームで、練習メニューやチーム方針を自分たちで決めていたため、高校までの「監督の指示に従う」環境とは全く違いました。どうすればメンバーのモチベーションが上がるか考えた経験は、現在のエンジニアとの連携にも生きています。大学の同期とは今も連絡を取りあって、同級生が働く電動工具のメーカーから商材を仕入れることもあります。

この仕事の喜びは、なんといってもお客様から感謝されることに尽きます。これまでトヨタの製品を使っていなかったお客様から「次はトヨタに入れ替えるよ」と言ってもらえたときは特にうれしいですし、トヨタという看板だけでなく、個人としても付き合っていただけになると大きな励みになります。今後は営業所のトップとして全体の成績を引っ張り、後輩や部下に自分の経験を伝えて育てていける存在になっていきたいです。

乃木坂46では東京、TWICEでは五大都市ツアーを全制覇するくらいのライブ好きです！グッズは限定ペンライトなどを買って楽しんでいます。特に乃木坂46の池田瑛紗さんと賀喜遥香さんが推しです。ビジュアルも良く、さらに乃木坂工事中という番組ではバナナマンさんとのトークがとっても面白くて大好きです！

薬学科3年 S.Kさん



未定事件簿というゲームに登場するキャラクターを“推し”ています。作品が続いてほしいという思いから応援を始めた。ギャップのある性格に段々と惹かれ、イベントの物販では、缶バッジを並べた痛バッグを持参。カードケースも自分でデコレーションしたお気に入りです。大学に入ってから約140枚のCDをコレクション。推しの声や音楽を聴くと、頑張ろうという気持ちになります。

建築学科2年 T.Cさん



女性アイドルが大好きで、よくライブや特典会に行ったりアクスタやぬいと一緒に写真を撮ったりして推し活をしています。中でも1番好きなアイドルはでんぱ組.incで、小学6年生の頃からずっと応援しています。ライブ力の高さが魅力です。

メディアデザイン学科3年 S.Aさん

HUS調査隊
メンバー紹介！



わたしは野球、アニメ、ゲーム、アイドル…様々なジャンルで推し活をしています！最近のブームはガチャガチャを回すこと、かわいいものを集めることです。ニュースレターを通じて、みなさんに学内外のワクワクをお届け出来ればと思います！

メディアデザイン学科2年
津田 彩花



私の推しはVTuber事務所にじさんじに所属している加賀美ハヤトさんです。最近推しとコラボしているお店に行って推し活を楽しんでいます。お出かけの時にはぬいぐるみを連れていきます。一緒に写真を撮るとかわいく大切な思い出になります！いつかライブにも行ってみたいです。

薬学科4年 U.Aさん



大学マスコットである「かがくガオー」のぬいぐるみと“推し活”を楽しんでいます。おそろいの白衣の小さなポケットと、後ろ姿の愛らしさがチャームポイントです。季節に合わせた「ぬい服」もあり、学校行事やサークル活動の場に連れて行くことも。一緒にいると元気をもらえます。

薬学科2年 H.Mさん



私は今アイドルにハマっています！その中でも＝LOVEが好きでグッズを購入したりライブに行ったりと推し活をしています。ニュースレターでは、メンバーと協力しながら読んで楽しいものを目指していきます！

メディアデザイン学科2年
岡田 一花

HUS
調査隊

このページは、学生記者が担当しています。

推し活大生
調査隊

愛がたっぷり推しグッズたち！
みんなの推し活を紹介！

取材して欲しい
ことなど
みなさんの声を
聞かせてください。



詳しくは、こちらまで！